



写真-1 花崗岩の輪石と赤煉瓦のコントラストが美しい平木橋（平成 24 年 10 月撮影）

■ 「石と煉瓦を組み合わせた美しい充腹石造アーチの水路橋」平木橋

写真-1 は、加古川市野口町水足にある前ノ池に移築された充腹石造アーチの水路橋・平木橋を撮影したものです。この橋は、「二重配置の輪石、煉瓦壁石造の水路橋で拱矢比（きょうしひ）1/5 の優美な造形に加えて、全国的に希有な英文扁額をもつ貴重な施設である」として、平成 22（2010）年 1 月 29 日に「土木学会選奨土木遺産」に認定されています。また、同年 3 月 5 日には、加古川市の文化財にも指定されています。

■ 赤と白のコントラストが美しい平木橋の設計者は誰？

淡山疏水の施設の中で、平成 17（2005）年度に「選奨土木遺産」に認定された「御坂サイフォン」は、ヘンリー・スパンサー・パーマーが設計したことがわかっています（『ひょうご水百景』No.182）。

しかし、平成 21（2009）年度に「選奨土木遺産」に認定された「平木橋」は誰が設計したのかわかる資料が残されていません。

大正モダンの香り漂う煉瓦壁の石造アーチ水路橋・平木橋の設計者については、神戸大学の神吉和夫氏が発表された『平木橋の設計者』に詳しく述べられているので、ここでは、その論文を辿ってみようと思います。

神吉氏は論文の中で、「平木橋の設計は柳本通義所長のもと、6 人が協力して設計した、あるいはこのうちの何人かが設計したとも考えられるが、大胆な推測をして設計者を一人に絞るなら根津捨三ではないか」とされています。

そこで気になるのが業務の分担です。5 支線（延長約 50km）、62 基の溜池等の設計業務を、各技術者の能力や経験などを踏まえて、支線単位で担当技術者を決め、柳本所長が全体を統括するというのが合理的な業務の分担方法と思われる。そして森安支線を担当したのが根津捨三だったのではないのでしょうか。



写真-2 東側面の扁額
「平木橋」その下に「大正四年九月架之」



写真-3 西側面の扁額
「HIRAKI AQUEDUCT BUILT SEPT 1915」

■ 森安支線には石造アーチ橋が3橋ある～平木橋・弁天橋・掌中橋

森安支線には、平木橋と同型式の石造アーチ橋がほかに2橋架けられています。稲美町中一色にあった弁天橋（下の地図参照）と同町印南にある掌中（てなか）橋です。

弁天橋は、平木橋とほぼ同規模の石造アーチ橋（橋長 16.5m、支間長 15.2m）で、平木池跡の南東約 1.8km にある弁天池の北にありましたが、昭和 50（1975）年頃に取り壊されています。「平木橋保存検討委員会報告書」には写真が掲載されていて、その意匠は「輪石が花崗岩、壁石が煉瓦造と見受けられ、平木橋と同様の構造形式」と記されています。

掌中橋は淡河川疏水の森安支線水路にありましたが、山田川疏水工事での水路拡張に関連して、大正 3（1914）年 9 月に橋長 5.3m の石造アーチ橋（現在の橋）に架け替えられました。

その後、ほ場整備による用水路のパイプライン化により平成元（1989）年頃から使用されていません。

現在は掌中橋公園として整備保存されています。築造当初の状態が残っているのは掌中橋のみです。

また、下の図-1 は平木橋の設計図で、図-2 が掌中橋の設計図ですが、いずれも英文表記です。



写真-4 大正 3（1914）年掌中橋建設時の写真
（博物館展示資料から引用）

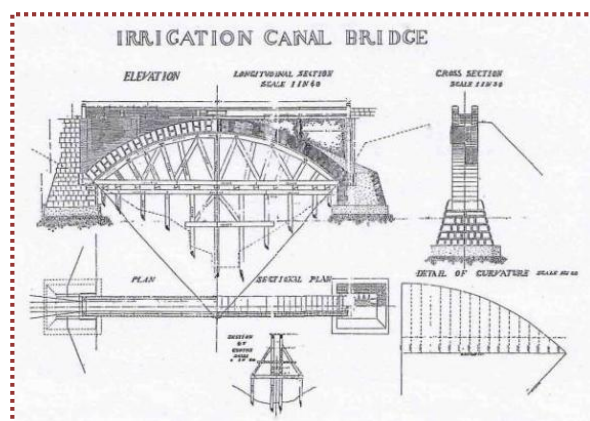


図-1 平木橋設計図（『兵庫県の近代化遺産』から引用）

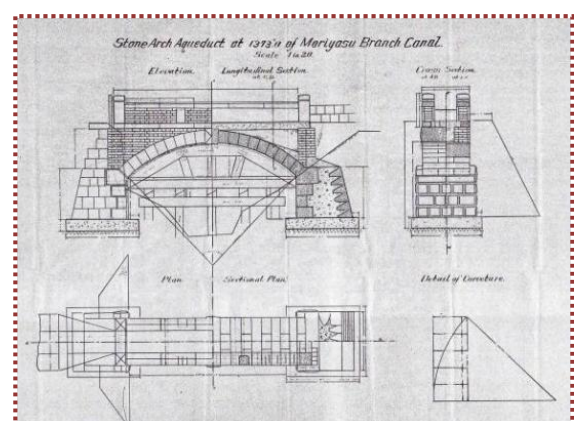


図-2 掌中橋設計図（『淡河川山田川疏水調査報告書』から引用）



図-3 平木橋と弁天橋の位置図

■ 掌中橋の概要

掌中橋は、淡山疏水・東播用水博物館（以下「博物館」という）の南約 1km の所にある石造レンガ積みの水路橋で、淡河川疏水蛸草支線の北池から森安支線の中場池へ送水するため、手中流に架けられたものです。

橋長 5.3m、幅 1.28m、水路幅 0.6m です。

なお、掌中橋は「日本の近代土木遺産（改訂版）現存する重要な土木構造物 2800 選」に C ランク（市区町村指定文化財、あるいは、国の有形登録文化財クラスを意味している）として選定されています。



図-4 掌中橋位置図



写真-5 掌中橋を手中流の右岸下流から撮影



写真-6 掌中橋水路を手中流の左岸側から撮影

掌 中 橋

掌中橋は、大正三年九月に架けられた淡河川山田川疏水森安支線の水路橋です。橋の下には手中流（別称岡流）が流れています。

この橋は、石造アーチにレンガを積み上げて作ったものであり、平成十年度に印南地区ほ場整備事業によって用水がパイプライン化されるまでの八十数年間、水路橋として重要な役割を果たしてきました。

この石造アーチにレンガ積み水路橋は、全国でも数例しかなく、今では大変貴重な歴史遺産となっています。この掌中橋を地域の財産として未来に残すため、平成十九年度ため池ミュージアム事業により掌中橋を保全することを目的として周辺に公園施設が造られました。当時、用水は橋の北から南へ流れていましたが、現在は公園内の池に水を流すため、逆に流れるようにしています。

現地説明板から引用

■ 平木橋の設計者である可能性が高い根津捨三のプロフィール

根津捨三は、工手学校（現・工学院大学）造家学科（建築）を明治 35（1902）年 2 月に卒業、その後同校の土木学科を明治 38（1905）年 7 月に卒業しています。

卒業後、技手として兵庫県に就職しますが明治 42（1909）年 12 月に退職、その後東京大林区（営林局）に勤めています。

明治 43（1910）年 8 月 28 日に山田川疏水事務所に着任、根津が 25 歳の時です。そして、平木橋が大正 4（1915）年 9 月に竣工しますが、その直前の同年 8 月 18 日に退職、約 5 年間在籍していたことになります。

森安支線の水路橋 3 橋が、いずれも「輪石が花崗岩、壁石が煉瓦」の石造アーチであること、平木橋と掌中橋の設計図はいずれも英文表記であることなどを考えると、これら 3 橋は同一人物による設計と考えるのが自然です。そして、設計図の英文表記が平木橋の英文扁額に繋がっている可能性は高いと思います。



写真-7 根津捨三
（『山田川疏水沿革誌』から引用）

因みに大正 5（1916）年頃、明石市大久保町西脇の岩岡支線に架けられた水路橋（天郷橋）はワーレントラス型式で、橋長 23.6m、水路幅 0.9m です。図面は下の図-6 のとおり日本語表記です。昭和 63（1988）年頃に鉄筋コンクリート製の水路橋に架け替えられています。



図-5 天郷橋位置図
（博物館展示パネルから引用・加工）



写真-8 ワーレントラス型式の天郷橋
（博物館展示パネルから引用）

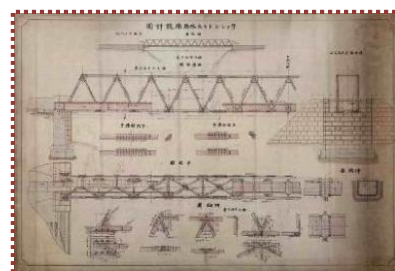


図-6 天郷橋の設計図
（博物館展示パネルから引用）

■ モノローグ

雑木林の中に長い間埋もれていた平木橋が、土木学会による近代土木遺産とする選定や東播磨南北道路の事業化により再び日の目を見ることとなり、改めてその価値が認識されることになりました。学識者や地域の関係者により種々検討した結果、移築保存することになりますが、「平木橋」の移築保存に至った経緯、移築工事概要および今後の地域の活用策なども気になります。

これらについては、移築工事などに関わった当時の加古川土木事務所東播磨南北道路対策室南部整備課長・八木正樹氏（現・県OB）が、一般社団法人日本建設機械施工協会の機関誌『建設機械施工』（2009年5月号 No.711 下記URL 参照）に寄稿された論文、または『月刊建設 Vol.54』（2010年9月&11月）に詳しくまとめられているのでそちらを参照してください。URL は以下のとおりです。

<https://jcmnet.or.jp/bunken/kikanshi/2009/05/051.pdf>

なお、東播磨南北道路（「東播磨道」）は、国道2号加古川バイパス（加古川市野口町）から国道175号（小野市池尻町）までを結ぶ全長12.1kmの自動車専用道路ですが、令和7（2025）年11月30日に全線開通しています。

追記：今回も博物館の井澤弘昌氏には、ご多忙の中いろいろ教えていただくとともに貴重な文献や写真を見せていただきました。深謝！

【参考資料】

- 1 『土木学会選奨土木遺産～関西の選奨土木遺産』 公益社団法人 土木学会
<https://www.jsce.or.jp/contents/isan/kansai.shtml>
- 2 『淡河川・山田川疏水記録誌』 いなみ野ため池ミュージアム運営協議会ほか 平成22年3月
- 3 『淡河川山田川疏水調査報告書』 兵庫県歴史文化遺産活用活性化実行委員会・淡山疎水検討会 平成24年3月
- 4 『月刊建設 Vol.54～近代土木遺産「平木橋」の移設保存について』 八木正樹 全国建設技術協会 平成22年9月・11月
- 5 『兵庫県の近代化遺産』 兵庫県教育委員会 平成18年3月
- 6 『土木学会第60回年次学術講演会～平木（水路）橋の設計者』 神戸大学・神吉和夫 平成17年9月
- 7 『平木橋保存検討委員会報告書』 兵庫県加古川土木事務所 平成17年12月
- 8 『山田川疏水事業沿革誌』 兵庫県淡河川山田川普通水路組合 大正4年7月
- 9 『掌中橋』 フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
- 10 『ヘラバヒメジョオン』 “Botanic Garden” 草花と樹木のデジタル植物園
<https://www.botanic.jp/plants-ha/hehijo.htm>

ヘラバヒメジョオン（笹葉姫女苑）

キク科ムカシヨモギ属の一年草で北米原産。ヒメジョオンの近縁種で、わが国へは大正時代に渡来している。やせて乾いた土地を好み、山地から亜高山帯まで侵入している。茎は直立して、へら形の葉は互生し、ほとんど鋸歯がない。7月から10月頃上部で分枝して白色または淡紫色の小さな頭花を咲かせる。右の写真の花は、12月に掌中橋近くの道端にしぶとく咲いていた。



写真-9 ヘラバヒメジョオン

※発行：令和6（2024）年2月 『ひょうご水百景』 No.191

改訂：令和8（2026）年8月 『ひょうご水百景』 No.191